

しんろ

## 豊かな「土壌」と確かな「タネ」

～2018年の年頭所感～

日本銀行福島支店 支店長

菅野 浩之 (かんの ひろゆき)



明けましておめでとうございます。ふくしまの皆様にとりまして、本年が佳き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年日本経済は、海外経済の改善を受けて輸出・生産が増加し、企業収益が好調を続けるもとで、設備投資が増加するとともに雇用・所得環境が着実に改善しました。これに伴い、個人消費も底堅さを増しています。景気は全体として、夏場までに緩やかな「回復」から緩やかな「拡大」に転じ、先行きも、こうした前向きの循環メカニズムが働くもとで、緩やかな拡大を続けていくとみられます。

こうしたなか、わが福島県の経済は、震災からの復興需要がピークアウトしたとは言え、公共投資や住宅投資がなお高水準にあるもと、良好な雇用・所得環境を背景に個人消費が持ち直し、緩やかな回復基調を続けています。もっとも、現状では、全国的な景気拡大の波及は他の地域に比べて出遅れています。復興需要の減少を補うことが期待される製造業の生産拡大の動きが微弱で、このため、県内景気は、依然として緩やかな「回復」基調という段階に止まっています。

振り返ってみますと、震災後間もなくから、福島県の経済活動は巨大な復興需要によって大きく底上げされています。そのあまりの大きさから、人の目には、通常の景気循環の波が掻き消されてしまっていたような状態でした。しかし、ここへきて、製造業を中心に、福島県経済の循環的な景気拡大のモメンタム（勢い）がかつてに比べ脆弱化している可能性が次第に明らかになってきたようにも窺われます。

もっとも、こうした状況に関係者が手を拱いている訳ではありません。例えば、当地では現在、官民を挙げて、農林水産業や観光の再生・復興とともに、再生可能エネルギーの推進や、医療・ロボット関連産業の集積、研究開発拠点の整備が進められています。企業誘致や販路の復活・拡大に向けた取り組みも続けられています。これらは、今後の成長分野を創生していく「タネ」となり、「土壌」となるでしょう。そもそも、この「土壌」には、世界的に高いシェアを持つ企業が幾つも存在しています。これは、当地製造業の技術力の高さとの人的資源の質量両面での豊かさの証左に他なりません。

『ふくしまの酒』は昨年の全国新酒鑑評会で金賞受賞数が5年連続の第1位となりました。この危機を乗り越える「突破力」をこれからも遺憾なく発揮し、豊かな「土壌」に確かな「タネ」を芽吹かせ、これを大きく育てていくことで、福島県の経済は自律的で持続的な成長を遂げていくはずで、私ども日本銀行も、そうした関係者の取り組みを金融面からしっかりとサポートして参ることをお誓いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。